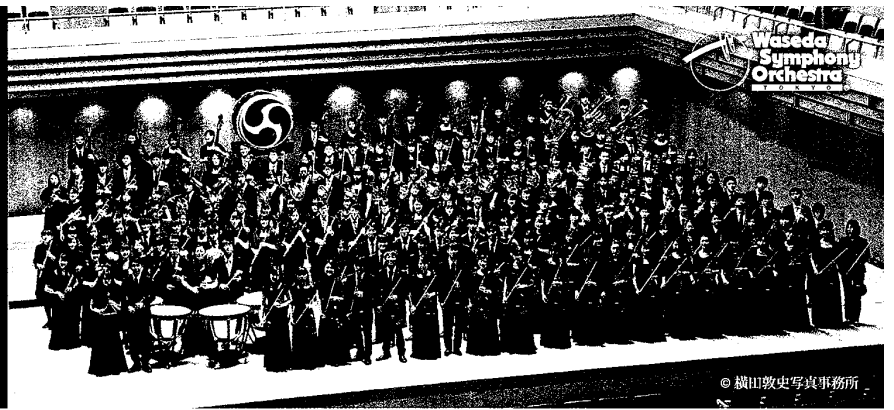


伝統と革新のオーケストラ 早稲田大学交響楽団 “ワセオケ”

早稲田大学交響楽団は、「ワセオケ」の愛称で親しまれる早稲田大学公認のオーケストラです。2013年に創立100周年を迎えた当楽団には現在約200名が所属しており、日々活動に励んでいます。年間4~5回の主催公演に加え、外部からの依頼による演奏活動も多数行っております。

共演者も多岐にわたり、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団やNHK交響楽団を中心に、世界一流のアーティストを共演者としてお迎えしております。2017年度に行われた、ドイツ・オーストリアの12都市を巡る第15回海外公演「ヨーロッパツアー2018」では、太鼓奏者の林英哲氏・英哲風雲の会と共演し、各地で好評を博しました。



©横田敦史写真事務所

指揮：曾我 大介 Conductor: SOGA, Daisuke



東京ニューシティ管弦楽団正指揮者。桐朋学園大学、ウィーン音楽大学、タングルウッド音楽セミナー、シエナ・キジアーナ音楽院で、B. ハイティンク、G. シノーポリ、I. ムーシ、U. ラーヨビッチ、小澤征爾、I. ケプテア、森正の諸氏に学ぶ。

1989年ルーマニア国立音楽院在学中にルーマニアでデビュー以来、ジョルジュ・エネスコ・フィル、ブラショフ・フィルなどルーマニア各地のオーケストラに定期的に客演。1993年プザンソン、1998年コンドラシンの両コンクールを始め、ヨーロッパを代表する指揮者コンクールで上位入賞。以降日本はもとより、ヨーロッパ、南米を中心に世界各地のオーケストラに客演を重ねている。2016年春にはプラレスト・ジョルジュ・エネスコフィルへの再度の客演が行われた。これ迄ルーマニア国立放送交響楽団首席客演指揮者、大阪シンフォニカー交響楽団音楽監督、東京ニューシティ管弦楽団首席指揮者を歴任。各地音楽祭出演や、講習会の講師、コンクールの審査員、また近年は作曲家としても活躍している。

当ニューイヤーコンサートの指揮は、2007年の第1回をはじめ、最近では6年連続となる。

独唱者



高橋 維
(ソプラノ)

新潟県出身。東京藝術大学大学院修士課程独唱専攻修了。二期会オペラ研修所第56期マスタークラス修了時に奨励賞、優秀賞受賞。第27回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞及び明治安田クオリティオブライフ文化財団の助成によりウィーンで研鑽を積む。「魔笛」夜の女王、「フィガロの結婚」スザンナ、「ナクソス島のアリアドネ」ツェルビネッタ、「ラ・ボエーム」ムゼッタ等、二期会をはじめとする様々なプロダクションで主演。コンサートソリストとしても、読売交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団等、国内主要オーケストラとの共演を重ねている。NHKラジオ「リサイタル・パッシオ」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等のメディアにも出演し、華のある舞台姿と卓越したテクニックで今後益々の活躍が期待されている。

2019年11月 東京二期会「天国と地獄」ユーリディス、2020年11月 日生劇場「ランメルモールのルチア」タイトルロールで出演予定。二期会会員。

石川県金沢市出身。洗足学園音楽大学声楽科を首席で卒業。同大附属オペラ研究所、二期会オペラ研修所マスタークラス修了。第8回世界オペラ歌唱コンクールアジア予選ファイナリスト。芸術インターナショナル在外研修員としてイタリア・ミラノに留学。

東京二期会本公演「ワルキューレ」「メリー・ウィドー」をはじめ、全国各地のオペラ、オペレッタ公演にてソプラノからメゾソプラノまでの広い役どころで出演。コンサートではベートーヴェン「第九」やマーラー「復活」の他、様々な宗教曲のソリストとして多くのオーケストラと共演。現代邦人作曲家の日本語作品に携わることも多く、オペラ「耳なし芳一」「てかがみ」「高野聖」(いずれも池辺晋一郎)、カンタータ「人間をかえせ(大木正夫)」「森のシンフォニー(曾我大介)」等のソリストを務める。

また、合唱指導者やボイストレーナーとしても広く活動している。二期会会員。



浪川 佳代
(ソプラノ)



吉川 健一
(バリトン)

国立音楽大学卒業、同大学院修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース第6期修了。

トルトーナ国際音楽コンクール、ラッコニー国際音楽コンクール、第20回奏楽堂日本歌曲コンクールなど国内外のコンクールで入賞する。大学院オペラ「フィガロの結婚」タイトルロールでオペラデビュー後、イタリアに留学しヴィヴァルディ国立音楽院に学ぶ。世界的名バリトン、パオロ・コーニ氏の愛弟子として研鑽を積みながらイタリア各地の歌劇場に出演。その他、宗教曲ソリストとしてイタリア国内ツアーやポルトガルへの演奏旅行など、数々の舞台経験を積む。

平成20~21年度地域創造登録アーティストとして活動しアウトリーチを全国に展開する他、子供向けのコンサートにも積極的に参加している。2020年2月、新国立劇場「セビリアの理髪師」に出演予定。二期会会員。公式サイト <http://keny.ciao.jp/>

演奏曲目 (一部)

◆ オリンピック行進曲

古関裕而は、作曲家として活躍している最中に戦争を経験しました。戦時中、戦意高揚を謳う曲を多く作曲したことを後悔していた古関は、戦争が終わると平和の大切さを訴える曲をいくつも生み出しました。1964年に開催された東京オリンピックのために作曲されたこの曲も、古関の平和への思いを強く反映しています。オリンピックという平和とスポーツの祭典を象徴するかのように、希望と活力に溢れた雄大な行進曲になっています。

◆ スポーツショー行進曲

日本のスーザの異名を持つ古関裕而作曲の行進曲です。古関裕而は早稲田大学第一応援歌「紺碧の空」や高校野球でもお馴染みの「栄冠は我に輝く」などスポーツに関する多くの行進曲を作曲したことで知られています。

この「スポーツショー行進曲」はNHKのスポーツ番組のテーマとして1949年に作曲されました。現在でもこの曲はNHKで使用されています。跳ねるようなリズムの主部と哀愁漂う中間部との対比が印象的です。

◆ 喜歌劇「こうもり」

《こうもり》は、ウィーンを代表する作曲家ヨハン・シュトラウス2世によって作曲された、全3幕からなるオペレッタ(喜歌劇/軽歌劇)です。「オペレッタの最高傑作」との呼び声高いこの作品は、軽妙な筋書きのもと、笑いあふれる内容となっており、全幕を通して気品あるウィンナ・ワルツが花を添えています。本場ウィーンをはじめとするドイツ語圏の歌劇場では、大晦日恒例の演目として親しまれています。そんな「ウィーンの粋」が充溢した《こうもり》を当演奏会では抜粋で演奏いたします。